

令和8年度 栗ヶ沢小学校経営方針



学校教育目標

「社会性を身に付け、創造力あふれる子の育成」
～みんなにやさしい教育活動の追求～

学校経営の合言葉 「心を通わせ、手を取り合おう」

すべての土台となるのは
「特別支援教育」
「個のニーズ」

確かな学力

豊かな心

健やかな体

【重点1】学力向上 ～ほめて認めて伸ばす～

- ①子どもの自己肯定感を高める授業
 - 1 授業規律の確立(新栗小スタンダード)
 - 2 基礎基本を押さえた指導
 - ・まずは教えることも大切
 - ・わかる・できる → ほめる・認める
 - ・全力で活動する → ほめる・認める
 - ・ほめられる・認められる喜び → 内発的な向上心 → ワクワク感
- ②個別最適の学びをめざせる場面を実践してみる
 - 1 学習者個人の理解度に合わせた学習(アダプティブラーニング):効率性
 - ・教師は「教える」のではなく「学びを調整する」役割になる
 - ・「ちょうどいい※」の継続 ※難しすぎて挫折しない、簡単すぎて飽きない
 - 2 学習者個人の興味関心に合わせた学習(パーソライズドラーニング):主体性
 - ・総合的な学習の時間
- ③話してみよう
 - 1 自分の考えを話せる子に育てよう
 - ・言語化 「なんとなく」を言葉にできる
 - ・自問自答「なぜそう思うか」を深められる
 - ・メタ認知「今の自分はどうか見えるか」を眺められる
 - 2 表現のための言語技術育成
 - ・言語活用科・MIM・栗っ子言語目標
- ④主体的に学ぶ授業展開へ
 - ・ICTの活用
 - ・課題を見つけて学ぶ授業 → 「楽しい授業」
- ⑤家庭学習の継続

【重点2】子どもの気持ちに寄り添った実践

- ①全職員で共通理解の上指導をしていく
 - ・きまりを守る子にしていきたい=自分を守る=命を大切に→安全教育
 - ・良い行動をほめる → いいこと
 - ・やっていることを認める → 次もやろう
 - ・一人一人の子どもは、その親にとってかけがえのないもの
 - ・自分の子がそんな扱いを受けたら、...
 - ・あゆみ・なかよしの子...特別な支援を必要とするからそこにいる
- ②子どもと向き合う働き方を!
 - ・業務改善で子どもと向き合う「ゆとり」をつくる
 - ・「ゆとり」をもって子どもと向き合う
- ③「特別の教科道徳」の充実を継続
 - ・考え、論議する道徳
- ④話してみよう ～話さなければ伝わらないよ～
 - ・困り感を話せる子に。話させる教師に。そして、しっかり聞いてあげよう

【重点3】教職員のメンタルヘルス対策「ゆとり」

時間的ゆとり.....「余白」 精神的ゆとり.....「余裕」
経済的ゆとり.....「安心」 思考のゆとり.....「遊び」
関係性のゆとり...「距離感」

- ①いろいろなことで 疲労・疲弊
 - ・周りの先生方を見ていい所をほめあおう。すごい所を認めてあげよう
 - ・周りの人に話してみよう。話された人は聞いてあげましょう
- ②ストレス対策
 - ・自分なりの発散方法を見つけよう(スポーツ・趣味・推し活など)
 - ・一人で抱えない。校長室にいつでもどうぞ
- ③研究「ICTを活用した新しい学びの転換を目指して」
 - ・楽しんで工夫してほしい「先生方自身のアップデート期」
 - ・自分を高める研修も楽しく行い、ステップアップを目指そう

【重点4】地域・保護者との連携深化

- ・保護者は味方 「心強い保護者」と伝え続けます
- ・地域行事への参加「頼れる地域」と言い続けます。
- ・行事への来賓参加継続
(運動会・もみじ音楽集会)
- ・中学校区連携(栗中・貝小)

生徒指導の三機能

- ・自己決定の場を与える
- ・自己存在感を与える
- ・共感的人間関係を育成する
- ・自己指導力を育成する

